

国際交流員ザブリーナ・リンの「コラム」

外国でも茶道を習えますよ！ なぜ日本の茶の湯が大好きなのか？



日本人にとっての茶道・外国人 にとっての茶道

「趣味はなんですか？」と聞かれると、昔は「さどウつです。」と答えていました。その時「えっ、サドウつって？」と一回では意味が分からないような反応が若い人達から多かったです。それはやはり私の発音が悪いせいだと思いい、「日本のお茶です」とか「茶の湯です」と答えるようになりましたが、私の趣味に相手は大抵びつくりするようで、あまり理解してもらえません。今の時代、日本人はあまりお茶をたしなまないし、自分で着物を着られる人も段々少なくなっているのです、外国人としてお茶のお稽古をするのはとても珍しいようです。グローバルゼーションとともに日本などのアジアでは欧米のものに興味を持つようになり、逆にドイツなど欧米ではアジアのものが流行っています。「どうして茶道が好きなんですか？」「茶道ってちょっとつまらないんじゃないですか？」と聞く人もいますので、今回のコラムではお茶の魅力について書きたいと思います。まずは、私のバックグラウンドについてちょっと説明し

たいと思います。

私の茶道歴は合わせたら二年くらいです。初めて京都に留学をした時、優しい先生のおかげでお薄と濃茶をいただいて、お稽古も始めました。その後、東京でインターンシップをしたときにお稽古を再開し、ドイツに帰ってからもお稽古を続けました。ドイツの北西部・ハンブルク市のハンブルク美術工芸博物館には裏千家の茶室があります。ドイツ人に日本の文化を紹介するため、裏千家の家主さんからいただいたと先生が教えてくれました。そこでは一か月に一回、茶道の実演会が行われています。実演会の薄茶運び点前が終わってから、見学のお客様がお菓子とお茶を召し上がります。反応を見るのはとても面白くて、やはりお茶だけではなく、その時着ている着物や帯についての質問も多いです。帯の形について「どうして後ろに枕みたいなのがあるんですか？」と聞かれたこともありました。

残念ながら抹茶が苦手な人も多いのですが、お茶の実演会は小さい子供でも真剣に見てくれます。やはり雰囲気が良いのでしょうか。

私が茶道を好きな理由



お茶の魅力とは何でしょうか？と聞かれたら、全ての日本文化を表している茶の湯が好きだという返事をします。お茶のお稽古をするとなにより落ち着けるし、日常生活から抜け出し、茶の湯の世界に浸ることが出来ます。私は普段はおつちよこちよいで、日本人よりも早くイライラすることが多いです。何故かは自分でもわかりません。しかし茶庭において、露地の飛び石の上を歩きながら自然を鑑賞し、心に喜びを感じています。一心に眺めたら発見できるものが多いです。散り散りになった落ち葉、青苔の生えた石、手水鉢の中の花や葉。茶室に入るととても気持ちが良いです。お茶を点てる人もお客さんも、お茶をする心が落ち着けます。まだ「和・敬・静・寂」を言える立場にはいないと思いますが、そういう気持ちに近いです。夏の蝉の声、床の間に置いてある花の上の水滴、涼しそうな和菓子やお茶碗―冬は炭を焚く音と香りで暖かさを感じます。全てこれが侘び寂というものです。

優しい先生のお言葉に甘えて、伝統的な茶事に参加させていただいた時、とても感動し、絶対に忘れられない経験をしました。特に先生方と茶道の先輩方と茶事をする時にお茶の心を感じました。お茶の世界だと、流派に係らず全てのものをとても大事にし、尊重します。無駄な動きもなく、季節や時間を大切にし、楽しめます。

どのような言葉を使えば良いのか分からないですが、「お茶の世界」は完璧な雰囲気であり、一期一会を過ごすことが出来ます。

一言でいえば、茶室にある茶碗の中の抹茶の色と香りは趣深いです！

